常磐毎日新聞

六月五日夕刊

日刊

發行所 常磐毎日新聞社

印刷所 常磐毎日印刷株式會社

電話 六三〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

星霜實に四十五年！

全生涯を學校衛生に献げた市原校醫に謝恩式

昨日商友會が母校講堂で

平商友會では既記の如く四日午後二時から平商新築講堂で總會開催後母校校醫市原卯太郎氏の謝恩表彰式を擧行した

市原醫師は平商校醫として十八年の永きに亘り生徒の体位向上に貢献したがその前、今の平第一小學校の前身平小學校の校醫としては二十七年に及び是れを通算すれば星霜四十五年間、殆んど全生涯を學校衛生に献げて居る

式場には六百の全生徒が謝恩の瞳を輝かして列席市原校醫は七十三才の老軀、然も元氣な顔は喜びに溢れて先づ中村教頭の開辭に始り宮城を遙拜して默禱の後服部校長の式辭、室橋會長の謝辭あつて記念品と感謝狀を贈り續いて市長代理伊藤助役、篠山平第一校長、川崎父兄會長が交々起つて市原老校醫の貢獻を讃え殊に此の美擧に出でた平商友會の報恩感謝の念篤き機宜の措置を賞揚して祝辭を述べ市原氏の鄭重な謝辭あつて閉式後谷口樓で盛んな祝宴を開いた

磐城丸は地元小名濱へ

水揚方針が決る

本縣水産試驗場所屬磐城丸は漁場の關係から漁獲物の水揚げを主として靜岡縣や千葉縣の漁港に水揚げする爲め地元小名濱の海産商組合員から地許閑却の怨嗟の聲が揚がり渡邊場長を訪ねて其方針を質す處あり場長亦大いに諒とする所となり三十日を切かけに八千餘尾の水揚げを見更に去る二日出港したのを聞き今後の方針を聞くに渡邊場長は次の如く語つた

三十日に本年初めての入港で八千尾許り水揚げを濟まし二日直ちに出漁を命じ目下千葉縣沖合に活躍中です、今後は甚だしい手違ひの生じない限り小名濱港に水揚げする事に下命しましたから御心配の樣な事態を釀す事は斷じて起させまいと思つて居ります、本年の鰹漁は例年とは違つた歩みですからこれから充分地許に水揚げが出來ると思ひます

大藏省預金部が平市に貯蓄獎勵

二十一日に懇談會

仙臺大藏省預金部支局勸銀仙臺支店が中心となつて今回東北六縣知事仙臺遞信局長、仙臺鑛山監督局長、勸銀東北六縣支局長等をメンバーとする國民貯蓄獎勵懇談會が結成され各地で公債消化貯蓄獎勵、金集中等の運動を強化してゐるが來る二十一日平市に青沼市長を始め大會社、工場、鑛山、鐵道等の關係者を招いて開催右運動に協力するやう要請することになつた

鍛冶工部屋が突然爆發！

重輕傷者五名

勿來町大日本炭坑鍛冶工部屋の圍爐裡が三日午後零時半頃突然爆發し周圍に居た坑夫本郷省六、石本松雄、大木正男君等三名は顏面腕等にそれぞれ重傷を負ひ他に輕傷二名を出した事件あつたが植田署で取調べの結果爆藥の殘りが付着してゐた箕を知らずに爐にくべたものと判明した

賃銀不平

早速袋叩き

好間村日曹炭礦現場員渡邊平二(三〇)助手柴須長藏(三一)同水谷武雄(二七)の三名は三日午後二時頃同坑々夫米倉澤見(二九)が賃銀が安いとて不平をならべたのに憤慨袋叩きにし全治一週間の傷を負はせたこと發覺今五日平署に檢擧された

鰹大漁に續く大敷網

小名濱活況

鰹漁季を迎へた小名濱魚市場は朝な夕な潑溂たる鮮魚が躍る活發さを示して居るが昨夕から今朝にかけての水揚を聞くと江名町清勝丸は鰹一萬尾を値段も飛切り高く十二三文、大敷も昨夕鯛百貫(四十五文)鮪七百貫(六文半)を揚げ今朝また鮪四百貫、鯛五百貫、鰯三百貫と云ふ所で漁況も天氣の快晴と同時に非常に好況を示して居る

高久校休暇

高久小學校では左の如く農桑休暇を實施する

△四年以上＝七日から三週間△三年以下＝十四日から二週間

高久托兒所

高久村の農繁期托兒所は來る十七日から一週間同村小學校に開設される

不動産を擔保の借金に介在して七百卅圓を橫領

神谷村大字中神谷佐藤安藏(六〇)は双葉郡新山町鈴木豊さんが草野村の佐藤ゆらさんから不動産を擔保に千八百圓を借受けるのに介在七百三十圓を橫領告訴され平署の取調べを受けてゐたが今五日送檢された

木炭の品質改良統一を企圖して

濱三郡移出組合結成

既報、同業者四十名を以て結成された石城、双葉兩郡下木炭生産移出商組合總會は十日午後一時から平團体事務所に開き新役員の選任規約の制定を行ふが今後の事業は左の如くである

△製炭搬出、荷造費の協定△木炭價格の協定及取引の統制△品質の改良統一△物資共同購入及生産品の共同販賣△組合員屆傭する製炭者其他の從業員を慰安又は表彰

拾得金寄附

内郷村綴柴田勘吉さんはこの程拾得遺失者不明で金二圓を還付されたが今五日これに金八圓を加へ平署を通じ陸軍恤兵部に獻金した

北支鐵道踏査報告記（一）

華北交通會社自動車技術課 花澤鄉一

北支が如何なる狀態に置かれ、現在如何なる狀態にあるかを、その一指標たる鐵道の分野に於て極めて概括的ではあるが觀察し、その恢復の過程を申上て內地の皆樣への御參考になりますれば幸甚の致りに存じます。

◎概況

一般に北支鐵道とは京漢、津浦各線の北支部分、京山、京包、同蒲正太膠濟隴海線を指すものである。これらの諸鐵道は、總て淸末民初の間外債によつて新設或は計畫されたものであるが第一革命以來國內に軍閥の私鬪相繼ぎこれが爲借款は軍費に流用されて建設中止となつたものもあり、各軍閥の割據管理に歸したためその營業收入の殆ど全部が軍費と化したものもあるといふ亂脈ぶりで、爲に修理建設の如きは全く放置されて顧みられないといふ狀態に在つたのである。

民國十七年（註本年は民國二十八年）國民政府の成立により、この狀態は漸次改善されるに至つたが、多額の外債を償却しなければならぬこと、重工業が發達してゐないためすべての重要材料は之を外國に仰がねばならぬこと、經濟的に立ち後れてゐること等々のためその發展は極めて遲々たるものがあつた。

滿洲國獨立以後に於ては、國民政府の反日的政策を反映して、諸交通手段——例へば公路建設の如きは經濟建設の名を藉りた寧ろ軍用道路の建設に外ならなかつた如く、軍事施設化の趨勢の中に於て、鐵道もその例外たり得ず、外國特に佛國、英國よりの物資輸送路として計畫された南方諸鐵道と相俟つて、直接日本の外廓たる滿洲國をその接壤地帶としてゐるだけ特に北支鐵道の軍事施設化は甚しいものがあつた

盧溝橋事件後は一時不擴大に終るかと見えた今次事變も、七月二十四日の郎坊事件を契機として再び燃え上るに至つたがこの事件と同時に、支那側鐵道從業員の多くは、その戰場から逃避し、戰場となつた地方及びその附近に於ける鐵道交通は一時杜絕の已むなきに至つた。わが方の特殊輸送は、この間滿鐵より事變勃發後直ちに派遣された鐵道從業員と又國鐵より派遣員を以て軍鐵道隊指揮の下に行はれた。

戰局の進展に伴ふ特殊輸送範圍の擴大により、その輸送業務は益々繁忙となる一方、支那軍及び敗殘兵匪賊等の襲擊、鐵道輸送の妨碍をも愈々廣範圍に亘つて行はれるやうになつた。これに對する處置は特殊輸送の重大性に鑑み、一刻も忽せに出來ないことであるから鐵道從業員は鐵道鐵橋の修復、電線の修理其他建設復舊に不斷の危險に曝され乍ら從事して來たのである

小名濱支局通信

商港第二期工事

支局長 小野務平

小名濱港が日支事變の影響に依つて第二期工事として殘された部分が然かも商港機能の全部とも云ふべき重要地點である事は事明の事實であるので本紙幾度か其眞相を指摘して放忍すべからざるを詳述して置いた筈である、町當局も屢々縣當局や內務省港灣課に向つて小名濱港の忽諸に附すべからざる事を陳情した事も一再でない筈であるが事實に徵して國家産業發達の上に此儘放置し難い事を痛感した、縣及內務省では種々調査の結果本格的に第二期工事着手の段取りと化し來たる事を喜ぶものである

去月三十日記者は所用を帶び縣廳に顏を出した其折小野町長亦出福して圖らずも福島で會見した其際小野町長は昨夜長官からの電話で港灣、河川に關する工事期成同盟會を組織する運びに至つたから出福せよと云ふので出縣した所如斯小名濱港修築第二期工事期成同盟會なるものが組織するに就て發起人會を開き旨に決定愈々六月十日發會式を擧ぐる運びに至つたと語るのであつた

茲に到達する所以のものは來るものが來たと云ふにつきるがさりとて茲に來たらしむるに至つた蔭に二萬町民の熱烈なる叫びを考慮に置かない譯けには行くまい、町當局の苦勞も並大抵ではないにしても未完成の港灣殊には少し許りの時化に遭ふても港內の怒濤は從來と形を代いた猛烈さを示し折角の漁港すらも遂に犧牲に供せねばならぬと云ふ理屈はどう考へても不合理極まる結果と云ふに落ちつく此の狀況を見た時に爲政者たるものは一日も忽諸に附し難きを痛感するであらう內務省港灣技師の坂口氏や本縣土木部長の後藤氏が然かも現狀の荒れ狂ふ氣を見ては對岸の火事を見る樣な態度で濟ます譯けには毛頭行ける、筈でなく茲に同盟會の創立となつた事は誠に時宜に適した施設として二百萬縣民のために慶賀に堪へない次第である

愈々本港第二期工事は本格的に軌道に乘つたものの樣ではあるが又々安神してはならぬ、縣當局の此熱意は軈て內務省をして動かし得るとは信ずるものの戰時下に措かる居る今日明年度豫算に編入せしむる迄の經緯に就ては前途猶暗澹たるものの橫たはるものと覺悟せねばならぬ前處に地許たる小名濱町民の決心が必要とさるゝのである

時ならざる運動の効果に就ては此亦其都度警醒の筆を進めて置いた筈であるが愈々本格的に軌道に乘つた以上地許町民は不眠不休の猛運動を以て其の目的貫徹に邁進せねばならぬ所で嘗て二百名の明治神宮祈願團の派遣となつた當時を回顧して明年度豫算編入の重大使命を貫徹するに充分の用意ある事を此機會に於て二萬町民の熟考を煩して止まぬ次第である(完)

天候が回復し桑不足も緩和

高繭價を目指して

養蠶家拍車をかく

上簇期を數日後に控へて天候不順に惱まされた地方の蠶況は三齡期の低溫に一般養蠶家達が惡影響を懸念善後措置を取りつゝあつたところ漸く天候回復を見て愁眉を開くに至り、その上桑不足難も大体緩和される見込みで高繭價をめざして一段と拍車をかけるに至つた、既に早物は五齡八日、大並ヽ齡三日、遲物四眠中であるが結局豫定より一二日の遲延で早物十日前後が上簇期と見られゐる

植田春繭增産豫想

植田地方の春繭の收繭豫想は一萬九千貫で昨年より二割強の增産見込み、十七日頃には出廻りはじめ廿五、六日までに終るものとみられる

去月廿七日同地方十二町村を襲つた降雹で桑葉の被害少くその後の伸びもよい、從來一ケ町村に數ケ所設けられてゐた集繭或出張取扱場所は一ケ所に限定することになつた

豐間村會

豐間村では今五日午前九時から村會を開き十四年度縣稅前期海面漁業稅賦課等差の件を附議した後沼之內區長並に薄磯區長代理者を選任した

植田町戸籍

植田町における十三年度中の結婚數は八十六組、出生兒二百八十名で事變前より減少したが本年度に入つて俄に增加し四月の如きは結婚屆け十八組、五月末日までに五十組に達し出生兒も百二十一名にのぼつてゐる

女裝强盜に

懲役十年求刑

既報＝小名濱町の料亭を襲へ關西地方に高飛びしたところを平署の手配で捕はれた女裝强盜犯人＝相馬郡中村町字原釜生れ前科三犯荒木寅雄(二六)にかゝはる强盜傷人事件の公判はこの程平支部で開廷檢事から懲役十年を求刑された言渡は十四日

同人は昨年一月宮城刑務所を假出所し娑婆の風に當ること僅か一年で兇惡な犯行を演じたもので平支部の豫審取調べ中逃走を企てるなど全くの强かものである

物見ケ岡稻荷再興

既報＝去る四月十二日全燒した平市物見ケ岡稻荷神社は慶長七年鳥居公が築城の際氏神として開祀した由緖ある社であるだけに氏子總代間に再興の計畫が進められてゐたが全市から六千五百圓の寄附を募り再建することになつた

鐵道省でも先頃損害其他の調査を行つた結果若干の補償をする事に決定したがこの交付金は神輿の費用に充てることに內定してゐるといふ

藝妓の

周旋料詐取

平署では目下東京市下谷區上野驛前小泉ビル內東京文具株式會社外交員冬木勇(三〇)を檢擧取調べてゐるが

同人は去る一日江名町料理業佐川國三郎氏(四七)方から藝妓を世話すると周旋料二百五十圓を騙取逃走平市內を徘徊中逮捕されたもの

燒酎をひつかけて千鳥足で米泥棒

手のつけられぬ不良兒

豐間村大字沼之內字新街漁夫鈴木勝吉(一八)＝假名＝は去る一日午後七時頃同村雜貨商比佐ていさん方で燒酎二合程ひつかけた上近所の精米業阿部源五郎さん方精米工場に侵入白米叺入一斗を竊取逃走中四日夜平署員に捕はれたが

同少年は先に住居侵入竊盜を働いたことのある手のつけられぬ不良少年である

根本家寄附

平市二丁目根本善吉氏はこの程死去された故人の遺志により今五日左の如く寄附した

△平市軍事後援會五十圓、同助成金五十圓△愛婦平支部十圓

警部の考試

平署部長島崎哲夫氏はこの程行はれた本縣警部考試々驗に合格した

土木委員會

平市の土木委員會は七日午前十時から開き公益質屋工事着手の件、四ツ波地內溜池竣工檢査立會の件其他を附議する

ラヂオ

JOHK

今晚の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「與一助の武勇」天野雄彥

▼後六、二五 講演「國防國家に就て」蠟山政道

▼後七、三〇 國民歌謠

▼後七、四〇 講演、醫博暉峻義等

▼後八、〇〇 管絃樂「追分節と主題とせる雪國に旅せる交響詩」早坂文雄曲、札幌新交響樂團

▼後八、二五 箏曲「一、九段調」等遞信機校

▼後八、四〇 合唱とピアノ獨奏

▼後九、〇〇 ラヂオドラマ「平作と五郎」（放送懸賞入選作品）演出OBK文藝課

明日の部

▼前九、四五 （幼兒の時間）おはなし「定ちやんのお見舞」

▼前一〇、二〇 家庭の時間「皮膚をよくする食物」井上兼雄

▼後〇、〇五 和洋合奏、東亞管絃樂團

▼後二、〇〇 （六局リレー）小學生の時間（帝六）ラヂオ綴方發表會の光外

▼後三、〇〇 家庭講座、阿部忠一「郷土便り」

▼後六、〇〇 子供の時間お話「ぐんぐん伸びろよ」

▼後六、二五 講演、笹澤魯羊

▼後七、三〇 國民歌謠「太平洋行進曲」

▼後七、四〇 野口道也

▼後八、〇〇 管絃樂、交響曲第四番ホ短調、日本放送交響樂團

▼後八、四〇 青年の時間 杉野忠夫

▼後九、〇〇 河鹿を聽く（荒天の場合は仙臺より俚謠）

▼後九、一〇 浪花節「隅田堤の仇討」早川燕平

住宅地分讓

都心に近き明朗境

平第三小學校東北約二萬坪

金より物の時代

「安全の土地」

大小各口の御相談に應じます御希望の方は市內田町一九蓮沼方（電話七八七番）へ御問ひ合せ下さい。

愛憎三度笠

吉川延作　瀧秋方画

…（２７５）…

尼僧（八）

「待て、どこへゆく！」

ふり仰ぐと、一人の若い男が、[illegible]な顏にも似ず、凜とした殺氣に焰のやうなさえを見せてゐるのが感じられた。

「わたしや、人を殺して來ました人を……」

と、牛兵衛は自分で人を殺しながら、その罪の恐ろしさにハラハラとして心臓が凍結したやうになつてゐた。

「何、人をころした、どこで殺した」

その男は、旅客風で、一本脇差を腰に差したばかりであつた。

「私の家でございます」

といふのを、聞いたのか聞かないのか、彼は無雜作に牛兵衛のつかんだ短刀をうばひとつて、月の光りにすかして見ながら、

「ウム、突いたな」

切刃が血ぐさくもつてゐたのである。

「エ、突きました、突きました」

「突いた人間は何者だ」

「女でございます、女でございます」

「女だ、何處の女だ」

「尼でございます、尼でございます」

「尼を又、どうして殺したのだ」

「その尼にならない前に、わたしのわたしの戀人で……へい」

「戀人か、感心したとでも申すのか」

「まつたく左樣でございます」

「尼が戀人か、どうも不とゞきな尼だな、どこにゐるのだ、おれに案內せよ」

「ヘイ、わたしも御供をいたしてゐるのでございます、御案內申します」

と彼は、その男を案內しながらそつと、その男の顏を見あげて

「時に、あなたは何處の御役人でございまして……」

「俺は、京の役人ぢや」

「へえ……御役人が、又どうしてこちらへ御出でなさいましたので……」

「何でもよい、はやく、おまへの家へ行くのだ」

「もう、そのすぐ向ふでございます、旦那とお目にかゝつたのが奈良街道、それ、すぐそこの高見に見えるのが、多賀の村でございます、多賀の村はづれが、私の家でございます」

その男は、だまつて、牛兵衛のいふことをきいてゐたが、やうやく家に歸ると不思議、行燈の火のみは消えずにあつた。

「おい、この家か」

と、見ると白衣の美くしい尼僧が朱に染まつてたうれてゐる。

「左樣でございます」

と、一緒にはいつた。その男は行燈の火口をさしむけて、尼僧の顏を凝視してゐたが

「おい、この女の名は何といふ」

牛兵衛に悲しさうに

「あの、尼になつた名は存じませんが、元の名は綾と申します」

「なんと！」

と、その男の顏が物すごく緊張したかと見ると、つゞけさまに

「何と、綾と申したな、それで、その方の戀人と申したな」

「エヽ、わたしの戀人ではございますが、わたしの申す事を聞きませぬので、可愛さあまつて憎さ百倍……」

と、聲がふるへた。

「何、それでは貴樣……無理から殺したのか、どうして此家へ來た」

「あの、途中で逢つてへい……」

と、牛兵衛が躊躇に話をするとその男は矢庭に、彼の胸倉をとつた。

「旦那、覺悟はしてをります」

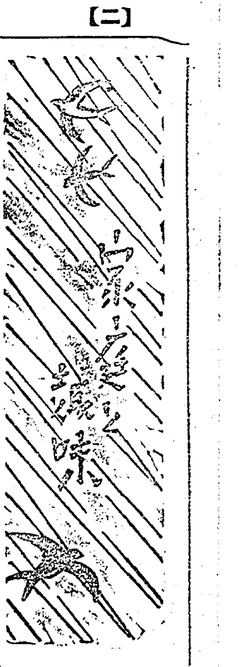
彼は、すでに死を覺悟しながらも、その男がおそろしかつた。

「エ、イ、覺悟」

その短刀で、牛兵衛の胸元へ、ブスリと刺す

「綾、大助ぢや、不思議な所で、不思議な對面」

と、次の室を見ると、[illegible]い、女の[illegible]がぶらさがつてゐた。



貯蓄參加標

帆足みゆき

國民貯蓄百億を目指す奨勵策として、全國の貯蓄組合加入者に「全國貯蓄參加標」を與へて、それを門口に掲げさせ、その名譽を表彰するといふ提案も強力でもあるが、そうなると「時局的不遇の生活者が、さらぬだに佗しい軒の下に、參加標を出す資格のない肩身の狭さは、一層切實深刻であらう」といふ反對論にも傾聽せねばならぬ

加之「國民殘らず貯蓄組合員」をモットーとして參加標を與へることになると、參加標の材料が何であらうと、その數量は莫大なもので、物資と勞力の不經濟である、さりとて、少額の加入者に與へないことにすると、同じ心で經濟戰に參加する總親和の國民感情を意外な所で傷つけて、表彰額以下の貯蓄なら、いつそのこと止めにしようといふ人が出ないとは限らず、それでは却つて擧國一致の態勢を亂すことになる

×

けれど有り餘つても貯蓄をせず、時局をよそに浪費する人も尠くないから、貯蓄奨勵を强調する事は現下の緊急事である。その適切なる精神的方法としては、更に一層國民の時局認識を深めて道徳心に訴へ、自發的に貯蓄報國に邁進さすべきである。が、同時に具體的な奨勵策として、府縣別に大體の貯蓄責任額を定め毎月各府縣の貯蓄增加率を新聞ラヂオによつて一般國民に知らしめ、互に勵ましあつて早く目標額に達した府や縣を、表彰するといふやうな團體的奨勵の方法をとることが個人的に自尊心を傷つける惧れのある「參加標」よりは、却つて有効な奨勵法ではあるまいか。

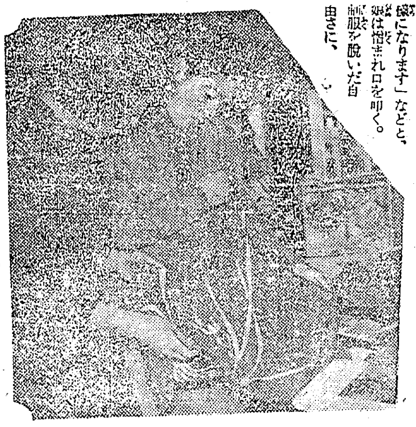
生活を樂しむ工夫

雜巾掛け一つを例にしても

先づ思ひあたる

女學校は出たけれど

「ほんとに内の子は御飯の炊き方一つ知らない」と母親がこぼせば「私達はまだ若いのよお母様位になれば御飯位は炊けるやうになります」などと、娘は憎まれ口を叩く。制服を脱いだ自由さに、まだ見ぬ世間には



い、事が山程待つてゐるやうな夢を懷いて、地道な生活になかなか足を下したがらないのが丁度女學校出たての娘さん達である、然し丁度この頃から眞面目な生活を學び始めたいと願ふ家庭を持つて子供が産れてからの思はぬ悲劇に出逢ふ例は枚擧に遑がない。佐藤新興生活館の研究所の先生として同じ年頃の娘を扱つた經驗を高良富子女史はかう語られる。――學校を卒業し立ての十八、九の娘さんはまだ／＼親掛りの**氣安さに馴れ**お小遣ひを餘計貰へれば、得をした位に考へてゐる頃ですから、お洗濯でもお炊事でもなかなか身を入れてはしません。つまり生活に責任がないのです。然しこのまゝ放つて置いたのでは一生實が入らずに了ひます。こゝで一家の生活の設計を新しく直すといふことで[illegible]は、先へ行つてから[illegible]道が出來て來ます。例へば雜巾掛けにしても、仕方がないからと**遂々するのと**雜巾を拭くにも雜巾を四つに疊んで一面づつ拭いてゆけば幾度もゆすがずに濟むとかお風呂や御飯をたくのに水加減や火加減と時間の計數を表にして研究すれば科學的に能率が上るといふわけで一寸とした工夫を自分で考へ出してみると、能率も上るばかりではなく、非常に生活に樂しみが湧いて來ます

この次はかうすればもつと時間も少く手間も省けるかも知れないと云ふ風に、今日よりは明日の生活に希望がわいて來るのです

さうなると今迄は母の[illegible]樣に困つてゐた娘さんにも、漸く**生活の尊さが**ハッキリ分つて來ます。汚れた洗濯物を行李の隅に突つ込んで置いたり、帽子掛けに机の上に腰かけて靴下をはいたり、綻びた着物を何時迄もピンでとめてゐたり、枯れた花を一週間も花瓶にさして置いたり、などといふ不衛生らしい無頓着さも目やかましく小言をいはなくとも段々なくなつて來ませう

兎も角一旦生活の鍵を握つた人は、どんな環境にもその快適さを守れようと、これはかうすればよいといふ生き方を自分で發見し得る人です

科學の話題

御存じですか女帯にペンキ

日常生活と塗料の話

塗料の發達は實に驚くべきもので、建築と生活とに貢獻する所多大であるのみならず、有閑マダム令孃の華麗な女帯にまで、あの派手々々しい花模様に塗料（ラッカー）が用ひられてゐることを御存じありますまい「アラいやだ、私達の帯にペンキが塗つてあるんですつて…」と今更驚かされることは科學の忍び寄つてゐる秘密を御存じないからで、昨今ちよつと原料難ゆゑ、塗料屋さん、織物色彩のラッカー[illegible]製造に[illegible]かへてゐませうか、間違ひのない**女帯や衣裳**のペンキ塗立御用心――といつて秘術は塗屋の方で內證かも知れません、ところで塗料の將來物資は原料が大抵輸入ですからこれはペンキ會社はギャフンと參つて配給の行詰りとなり、今年の暮からはペンキ饑饉が極度に來るのではないかと危惧されてゐます、從つて外國塗料の代用品を國産に求めても俄かに原料が湧いて出ないから、先づ塗料軍需を初め鐵道の納品塗料の規格――使用品の標準を低下させて、檢査を通すといつた方面にも節約省は働いてゐますから民間のペンキの特質がグット下つて惡くなることは請合ひ、板塀を塗らしても屋根を塗らしても三年保つたものは**一年で正體**がはげ出さないとも限らない譯です、何をいふにも外國原料を仰ぐ淋しさにはペンキ稼業の悩みが、各塗料會社や組合に沛然と降りそゝいでゐます

國務な發展を遂げる塗料だけに、輸入殺到の盛時にはよまれて見すく塗料その物が悪くなつて行くのを見送つてゐる退步を戒懐とされてゐますが、塗物の使へなくなつたところに**錆止塗料が**減るとか、船舶や列車の方でも、高くて悪いものを塗立てるとか、いはゆる代用品間合せ時代を逃く穿らねばならぬといつて聯合會その他の研究運動も企てられてゐます、明治初期に西洋建築の目印たる鉛ペンキから出發したペンキの現代塗料への發達が外國依存の痛手を受けてしきりにあへいでゐる譯です

今日のめも

住宅と衛生 住宅にはいろ／＼有ますが自然換氣や保温上からは茅葺屋根が一番合理的で板葺、瓦葺などがそれにつぎます又障子は硝子の様に紫外線を吸收せずよく通過させるのでよく又空氣の流通もよく頗る理想的です

間違ひ易い 言葉づかひ

召使に對して使ふ 主人や子供の呼び名

「召使ひに子供のことを話すときどんな言葉が適當でせうか。」

「たとへ小さな子供でも矢張り丁寧にさん付けで名前をいひ、もう息子のある息子さんでしたら若旦那といふ言葉をつかつて召使ひに話します。「若旦那はお居でになつてをりますか」といふやうに…旦那さまといひます。しかし息子さんがもう戸主になつてゐたら若旦那といはずに旦那さまといはねばいけません。」（田中詢吉氏）

首から下に美 英佛女優の首合戰

◇…「パリ發」ある、パリの某興行事務所へ息せき切つて飛び込んで來たうら若い一美人いきなり居合せた支配人をトッ捕へて一枚の寫眞を突き付けざま「これ首から上は他人だけれど下の方は確かに私の姿だわよ」と甲高い聲でわめき出した、突然のことに度膽を拔かれキョトンとしてゐる支配人に向つて、この美人が憤然に火がついた如くしやべり立てる所を聞くと

◇…美人はディアナ・チェーズと云ふ名の知れた英國の女優さんだが、無名の裸體寫眞の顏だけが何者かのためすげ代へられて賣り出されてゐたのを發見して、當地の興行師の花形ダンサー、リリン・エリス孃の寫眞となつて斷くはあられもない所業に及んだものと判明した、結局この紛爭はチェーズ孃の方で佛國裁判所に訴訟する二千ポンドの損害賠償請求訴訟となつて持ち出される所まで行つたが、裁判所の方でも首から下の寫眞だけではハッキリした證據とならず手を焼いてゐると云ふ

ぬか味噌の水除り

ぬか味噌の水をとるには二つ割にした太竹の節底の流徳と同じに切り、節を樋なりにけづつて、しかも上にキリで多くの小穴をあけ、別に節底に作つた水のぬけ穴（[illegible]）を[illegible]入れのたびに[illegible]にたまつた水を[illegible]出[illegible]できます

「酢」[illegible]ではか竹の[illegible]つかしいので、よい加減にしてピッタリ[illegible]古ゴムをつめて[illegible]ることです[illegible]屋にたのむよりほかありません（東京府立工藝[illegible]木工科）

花嫁讀本

戸棚の整理

戸棚には衣類寢具、食器や臺所用品、器物・雑貨・寢具その他色々ありますがそれ／＼用途に從つて器の大きさ、形、色などに分類してゐます。然し總て物の整理をするには次の様な點を頭に入れて置く事が肝要です。

見付け易く並べる事 器物には容器、上包みなどに必ず中味の名を必ず書き付けて置く事

取り出し易く置く事 （イ）度々出し入れする湯呑茶碗類のやうなものは手前に置く、（ロ）現在入用のものは手近に。例へば合服は手前に不用の冬服は奥の方に。（ハ）使ひ途の違ふものは重ねぬ事。例へば果物皿の上にコーヒー茶碗をの菓子皿を積み重ねぬ事。（ニ）同種類のものは奥から手前に縱長に並べる事。例へば揃ひの模様付茶碗を棚の奥に縱に並べると取り出し難い。

空間や壁を利用する事 （イ）食器などでは上の扉の内側に曲り釘を付けて、コーヒー茶碗を下げてもよい （ロ）大工道具箱では蓋の空間を利用すると見易くてよい

置き場所を變へぬこと忘れぬこと （イ）この戸棚には何があると書き出して、戸の裏側などに貼るとよい （ロ）常の置場にないものを容易に發見するためには大工道具の様なものは、壁に掛けてその姿に[illegible]物の型を描いて置くと子供にも分る

（ハ）同時に入用のものは同じ場所に置く事 [illegible]、同類、炊やり器は一緒に、火鉢と火箸は一緒に置く。

身體中一面に塗らぬ事

汗しらず……

皮膚の呼吸が出來ません

入浴をすましたなら、濡物の上に濡れひろげた清潔なタオルの上へ赤ちやんをスッポリとおく皮膚にも頭髪にも湯や汗が殘らぬやうこのタオルですつかり拭きとります

◇

アセモなどができてゐないならば汗しらずやシッカロールは頸の下、腋、股、お尻など皺の多いところだけにつけるやうにします。身體中に塗つたのでは皮膚の呼吸をふさぎ妨げることになります、

◇

皺の多いところは皮膚の摩擦が激しいし、アカや汚物がたまり易いのでこのシッカロールで皮膚のすれ合ひ、タヾレを防ぎまた汚物や汗を吸ひとらせるわけです。

お醬油の見分け方

お醬油は味の根本をなすものですから日常これの品質については相當の定見をもつてゐなければなりません、見分け方は先づ色は眞白の小皿に少量とり分け、皿を少しづつ傾けて見て、濁りのない、とろりとして紅褐色を呈してゐてのびのよいものが結構です、味は口に含んでしばらくしてから吐き出すと、口中にいやな味が殘らねば味がわるく、甘辛鹹味が充分調和して氣にならない軽い味の殘るのがよい、妙にねばつた、甘味のあるのも感心しません、香りは一種の芳醇のあるのがよく、藥品臭いのはいけない

◇

陸上を走るいろ／＼の車は曲る時に內側に車體が傾けるのでありますが、汽船は外側へ船體を傾けて曲ります、陸上と海上とでは全く反對であります

大陸行進譜
大川[illegible]作
若山泰美畫

第四十四回

双美の失踪（三）

八時[illegible]の京濱線の列車には、とう／＼双美の姿は見えなかつた。

深田と民江はガッカリしてプラットホームを出た。目の先が暗ッ暗になるやうな不安が、二人の心に重たくのしかゝつて來たのである。

「新橋あたりで降りたのではないでせうかねエ？」

民江は小首をかしげながら云つた。

「さうですね、僕もそんなことを思つたんですけど、しかし若し、東京驛で降りないで、新橋あたりで下車したとしますと、いよ／＼面倒になりますね」

深田の心には、横濱あたりで下車して、東京へは來ないのではあるまいか、深田の民江に對して、日頃は何でもないやうであるが、何か不滿がありはしなかつたらうか、そしてこの度びの、自分と双美との仲を取りもつ、民江と杉山三平のことを知つてゐるのではあるまいか、隣を出るまでの間にいろ／＼な暗い影が次から次へと襲つて來るのであつた。

大阪での旅行もいよ／＼險惡のやうに思はれた。杉山三平の取りなしも、民江の心づくしも、双美に對する努力も、總てが水泡に歸するやうに思はれた。

深田は自分の家に歸る勇氣もなく、民江について駒込の家に行つた。

九時になり、十時をすぎても双美は姿を現さなかつた。深田は大阪の杉山三平に長距離電話をかけた。

「十時になつても双美さんは歸つて來ませんが、どういたしませう」

深田の聲はおろ／＼とふるへてゐた。

「そんな馬鹿なことはないでせう、東京に行つたのなら、何處かに居ますよ。心當りを探して、明日中には必ずつれて來て下さい」

「しかし……」

深田がせき込んで話しかけようとすると、三平は電話を切つて終つたのである。深田は取りつく島もない思ひで、ソファの上にドッと腰をおろした。

「何ですつて？」

民江はからだをのり出して云つた。

「……………」

深田には答へる言葉がなかつた。

「何うなりました」

民江はとう／＼椅子を立つて、深田の側に立つた。

「困りましたねエ……」

深田の顏は血の氣もなく、眞ッ青であつた。

「心當りの家を探して、是非共明日中につれて來てくれですつて……」

「では早速心當りを探させませう何とかうまくやりませんと、あたしばかりでは ありませんからねエ」

民江の邪心がポッ／＼頭を出して來たのである。ほんたうならば深田などは眼中になく、たゞ、杉山三平と民江の奸策で、一時に西[illegible]部長者になつた北上[illegible]（民江は民江の主人であるのであるが）の財産をうまく利用して、民江の野望を[illegible]しないと、三平は今危機一髪の中にあるのである。若しこゝで大阪での芝居が失敗に終り、いろいろな隙が立てば、當然杉山三平の失敗であり、延ひて深田と双美のことが追求され、飽なき奸策が白日の下に暴露されることになるのである。民江が思ひ餘つてゐるところに、表の方で電報といふ聲が―た。

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

三井タクシー
平 二 電話六八五番

花柳病科外科
本村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

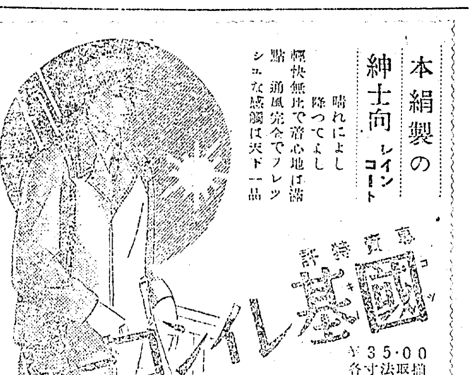
外科內臓外科
X光線科 院長 安齋徹
―新設―
産婦人科 醫學士 黑澤廣
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

少年少女 給仕入用高給面談

夏!!! 夏は福壽軒の
蜜豆から!
フルーツミツ豆
あんみつ豆
苺ミルク…フルーツポンチ…御座います。
是非!!御召上りを……
平市田町 電話二八番
福壽軒食堂

⊠……出前迅速
御料理
"むぎとろ"
是非!!御試食下さい。……
平市田町紅小路
さつき
電話四八八番

◇診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續槽工科
小兒齒科、槽膿漏科、齒列矯正科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長 日本齒科醫學士 中野喜次
日大齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義



本絹製の
紳士向 レインコート
晴れによし 降つてよし
輕快無比で着心地は滿點 通風完全でフレッシュな感觸は天下一品
專賣特許 國基レインコート
¥35·00 各寸法取揃
特約店 大崎屋洋服店
平市銀座 電96

たひら正宗
美味! 芳醇!
山崎合名會社 電話一〇番

鈴木醫院
平市田町 電話五八番

開院
齒科全般
口腔外科
齒列矯正
平郵便局ウラ通り
平市南町四十五
鈴木齒科醫院
東京齒科醫學士 鈴木與一郎

鑑定
住宅家相の設計製圖
建築造作の時期撰定
見學旅行の道程相談
結婚縁組の性格鑑定
目的企業の成否豫斷
平市白銀町
石島陰陽館
電話六五〇番

高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科
平市田町 電話五一三番
―◎看護婦至急募集―

五月人形
大賣出し
銃後の護りは健康兒
兒童愛護の精神から
お子樣の將來に幸を祈る尚武節句を盛大に行へませう。
スガノヤ提燈店
平市四丁目（電話九五番）

五月人形
⊠尚武日本に
尚武節句あり!!!
⊠勇ましい武者人形⊠
⊠鯉のぼり⊠
⊠甲胄類⊠
―各種豐富に取揃へました 是非!一度御覽下さい―
平市二丁目
フクダヤ祝品部

謹啓
實相院葬送の際は遠路の處御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段有難く奉深謝候拜趨御禮可申述の處乍略儀以書中御禮申上候 敬具
昭和十四年六月五日
福島縣平市二丁目
根本善吉
親戚一同